

## 日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	宮川みどり	市確認欄	
専門部会名	第1回	全体会	
日時	令和7年4月22日(金) 13時30分～14時55分		
会場	日進市障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 6名	市職員 2名	事務局 14名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り・ <input type="checkbox"/> なし		
報告・検討の内容	① 趣旨説明 ② 参加者ご紹介 ③ にっしん障害者みらいプランと専門部会について ④ 各部会での取り組み及び課題について ⑤ その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>・会議冒頭で、聴覚障害を持つ参加者のための iPad 使用と、音声認識ソフト (UD トーク) の導入説明。</p> <p>① 趣旨説明</p> <p>・自立支援協議会専門部会の発足から14年が経過し、各部会(ケアマネジメント、就労、子ども、権利擁護)での取り組み状況をまとめ、部会同士の課題共有と議論の一助とするために全体会を実施することになった。</p> <p>② 参加者ご紹介</p> <p>・自己紹介を実施。</p> <p>③ にっしん障害者みらいプランと専門部会について</p> <p>・にも包括や地域包括ケアシステムの構築、数値目標について説明を実施。          ・プランと自立支援協議会本会、部会の関係について説明を実施</p> <p>④ 各部会での取り組み及び課題について</p> <p>ケアマネジメント部会(小山副部会長)</p> <p>・精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの啓発。          ・日中サービス支援型共同生活援助の評価資料の検討。          ・緊急時の対応を含めた家族支援体制についての検討。          →強度行動障害への対応に対して、幼少期から家族との伴走支援が必要。</p> <p>就労部会(水谷部会長)</p> <p>・学齢期からの早期支援の重要性の訴え。          ・就労支援施設のカatalog修正の取り組み。          →幼少期からの日常生活やコミュニケーションのスキル向上を目指した</p>		

	<p>取り組みが必要。そのため子ども部会との協働の検討を提案。</p> <p>子ども部会（阿尾部会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の把握と特別支援コーディネーターの研修協力。</li> <li>・発達課題を持つ子供達の週末支援、医療的ケア児に関する支援。 →福祉、学校、家庭の連携の重要性を説明。</li> </ul> <p>権利擁護部会（磯畑副部会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害理解を深めるためのイベントの開催。 ボッチャ体験会、障害者虐待防止勉強会、災害時支援 →障害者の避難所での配慮の必要性の把握のためのアンケート実施。 意思決定支援のため、幼少期からの家族支援の重要性を説明。各部会との連携の必要性を訴え。</li> </ul> <p>&lt;意見交換&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後等デイサービスでの就労経験の共有についての提案と議論。</li> <li>・学習よりも社会スキルの向上が、就労につながるという情報の発信の重要性を共有。</li> <li>・異なる部会（就労部会と子ども部会）の連携による活動の効果や支援体制の強化について議論。</li> <li>・意思決定支援の課題について、より具体的な検討が必要との意見。</li> <li>・学校、福祉サービス事業所、家庭の連携強化のための情報共有ツール（例：サポートブック、サービス等利用計画、他事業所の個別支援計画）の有用性についての意見。 →権利擁護部会での災害時の配慮発信ツールを作成する場合も、意識して取り組んでいく提案。</li> </ul>
<p>今回確認事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会の取り組み状況や課題の共有を行った結果、意思決定支援や強度行動障害への支援、幼少期からの家族支援等、部会での課題はところどころつながっていた。</li> </ul> <p>→今後障害者支援における部会間の連携を、強化していくこととなった。部会員は各部会に持ちかえり、今年度の部会の取り組みに取り入れていく。また取り組みの進捗報告を令和7年7月15日(火)の本会議で実施する。</p>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和7年3月17日（火）13:30～15:00</p>
<p>次回会場</p>	<p>日進市障害者福祉センター 大会議室</p>

## 日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第 1 回	全体会
	令和 7 年 4 月 22 日（火） 13 時 30 分 ～14 時 55 分	
会 場	日進市障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	
① 福岡 玲奈（欠席）	② 小山 隆弘
③ 水谷 公哉	④ 岩井 知子
⑤ 阿尾 匡晃	⑥ 丸山 美希
⑦ 森田 紗弥香（欠席）	⑧ 磯畑 香苗

（市職員）

① 大澤 紀夫	② 大橋 志乃
---------	---------

（事務局）

① 川合 睦仁	② 櫻木 順子
③ 渥美 則親	④ 武田 裕子
⑤ 宇佐美 香津美	⑥ 日岡 由季枝
⑦ 武末 拓也	⑧ 西岡 きくの
⑨ 中村 美智子	⑩ 宮川 みどり
⑪ 西澤 伸太郎	⑫ 白井 暢子
⑬ 桂川 斐斗美	⑭ 山 歩美

## 日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	宮川みどり	市確認欄	
専門部会名	第2回	全体会	
日時	令和8年3月17日(火) 13時30分～15時05分		
会場	日進市障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 7名	市職員 3名	事務局 14名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り・ <input type="checkbox"/> なし		
報告・検討の内容	1 各部会の今年度の取り組み報告。次年度の取り組みについて 2 全体会で共有・検討したい課題について 3 次年度の全体会での協議内容について 4 その他		
提出資料	別添のとおり		
報告事項及び意見	会議冒頭で、聴覚障害を持つ参加者のための iPad 使用と、音声認識ソフト (UD トーク) の導入説明。 <b>1 各部会の今年度の取り組み報告。次年度の取り組みについて</b> <b>2 全体会で共有・検討したい課題について</b> ※両議題は密接に関連しているため、まとめて報告を依頼。 (1) ケアマネジメント部会 (福岡部会長) ① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの啓発 「にっしんココロの支援ガイドブック」の更新を完了。次年度に向けて QR コード化を進めることを決定。またより多くの市民の目に触れるよう、卓上ポップ・壁掛けポスター等の啓発物を作成予定。 ② 児童発達支援ガイドラインに基づく勉強会の実施 家族支援の基本を学び、部会内で共通認識を形成し、コミュニケーションによる信頼関係構築、情報収集の重要性を共有。 →一部事業所では勉強会を実施するなど、実践につながった。 ③ 地域課題の抽出と共有 議論から、部会本来の役割に立ち返り、地域課題の把握を目指すことになった。 →来年度は部会員全員から「対応困難事例」「事業所での支援向上に繋がった事例」「成功事例」を持ち寄り、意見交換を行う予定。 ④ 家族支援のあり方・意思決定支援の充実についての検討 各事業所で立場や視点が違うことから結論に至らなかった。 →他の部会でも共通した課題ではないかという意見が上がっているため、今後は全体会でも共有していきたいと考えている。 ⑤ 地域生活支援拠点の強化の検討		

市内事業所で緊急時を支える体制整備を進めており、緊急時受入体制として「拠点確保事業」が存在する。しかし、利用実績がなく、機能が十分に発揮されていない現状がある。登録事業所が少なく、制度の周知不足も課題となっているという結論になった。

→全体会での周知・理解促進を進める。

## (2) 就労部会（中河副部会長）

### ① 学齢期からの就労支援について

令和7年6月4日、日進市民会館にて障害福祉サービス説明会を開催。今年度は午前10時～12時で午前中の開催。

参加者は、保護者45名（中学生の保護者が最多）、教育機関・相談支援事業所等42名、事業所関係者を含め計127名。

→説明会の目的はアセスメント実習（令和7年10月からは就労選択支援）を適切な時期に受けられるよう促すこと。対象は中学生・高校生。来年度は、適性や準備状況をみるための就労選択支援事業の必要性を伝えていく。

### ② 就労施設商品カタログの作成・修正

名古屋学芸大学の草野先生及び学生の協力により、新しいカタログを作成した。周知先は公共施設、道の駅、大学、区自治会など。

→公共施設に設置予定。またQRコードのついたチラシはパッソ日進校で作成中。電子データでも閲覧可能にする。また広報、電子連絡帳ヘルピーネットを活用して周知を行う。

### ③ こども部会との合同部会

令和7年10月15日にこども部会と合同で開催。幼少期から成人期までの切れ目のない支援の重要性を確認。またヘルピーネットを活用し、幼少期からの情報蓄積や支援計画のデータ化・共有を進め、支援者間の連携強化を図ることや、横のつながりを持てるようにしていく必要性を議論した。

→合同部会は今後も継続予定。

## (3) 子ども部会（阿尾部会長）

### ① 就労選択に関する連携

特別支援教育コーディネーター研修への協力を通じて、学校・事業所・行政・相談支援が共同で事例検討を行い、連携の実践的な学びを得た。また、保護者から寄せられる進路相談内容を集計し、即時対応できる内容と個別判断が必要な内容を整理した。

→来年度はその結果を基に、相談対応マニュアルの作成を検討していく。

### ② 学齢期からのつながりのある支援の検討

就労部会との意見交換を通じて支援者の困り感や目指す方向性を共有した。さらに、進路選択に関する研修では、専門学校の講師から具体的な支援事例を学び、実際のケースを用いた事例検討を行うことで、立場の異なる支援者が将来の育成と支援の在り方を深める機会となった。

→来年度も継続して実施していく。

### ③ 週末の過ごし方支援について

保護者からの「週末の受け皿が少ない」という声を受け、事業所の余暇活動や大学サークルのイベント情報を集約し、社会福祉協議会ホームページに掲載した。またこれらの情報は学校の保護者連絡システム

も利用し、周知した。

→効果について、今後検証していく。

#### (4) 権利擁護部会（森田部会長）

##### ① 災害時支援について

令和7年9月～11月で、市内障害福祉事業所を利用する当事者および家族を対象に避難所への避難についての配慮点についてアンケートを実施し、157名から回答を得た。アンケートでは、「感覚過敏や不安によるパニックへの懸念」「自傷・他害など行動面の不安」「1人になれる空間の確保が必要」「絵カード等を用いた丁寧な説明の必要性」が挙げられていた。

→これらを踏まえ、令和8年度は避難所で必要な配慮や対応方法を運営される方に伝えるツールの作成に取り組む予定。

##### ② 障害者虐待防止研修会について

令和8年1月、四法人と部会の共同開催により、「意思決定支援におけるコミュニケーション」をテーマに研修会を実施。児童の事業所や学校の教員も参加。支援経験が浅い職員にも分かりやすい内容としシンポジストには10～1月の期間で当事者支援を実践してもらい、当事者・職員双方に変化が見られる有意義な研修となった。

アンケート結果よりデマンド（ご本人やご家族の希望）とニーズ（客観的な必要性）を分けて考える視点は浸透しつつある一方で思い込みも見られた。

→アセスメントを継続的に更新し、当事者理解を深め続ける仕組みの必要性が確認された。次回研修は令和8年9月19日、開催予定。

##### ③ 障害者差別解消法の周知啓発について

にしん市民まつりにて、障害者差別解消法の周知を目的にポッチャ体験イベントを実施し、ヘルプマークのパネルや障害者マークの冊子を設置し、市民に理解促進を図った。しかし体験後アンケートでは「合理的配慮」という言葉を知らない市民が約半数という結果だった。

→今後も継続した周知が必要と言う結論になった。令和8年度は12月の障害者週間での取り組みを検討中。

##### ④ 強度行動障害支援と虐待防止の課題

- ・経験不足により、伝え方が分からず誤学習し、行動障害につながるケースが多い。強度行動障害が行動化してからでは、適切な意思表示の再学習は非常に困難。

- ・虐待が起きるケースは、重度の自閉症・強度行動障害のある方に多いと言われている。支援員の疲弊や離職につながりやすく、事業所だけで質の向上を図るには限界がある。現状、強度行動障害を受け入れている事業所は非常に疲弊しており、これ以上の受け入れは困難な事業所が多い。今後、「行き先がない」当事者が生じる可能性が高い。

→そのため、日進市として支援の仕組みづくりを主導して欲しい。

また市職員に現場の実態を把握するため、ぜひ現場に足を運び、状況を見て欲しい。

### 3 次年度の全体会での協議内容について

#### (1) ヘルピーネットの活用課題

資料の閲覧を促しているものの、要項の制約で見られない委員もおられ情報共有の基盤として十分に機能していない。全体で活用できる仕組み

	<p>へ改善が必要。</p> <p>(2)次年度の全体会で扱うべきテーマ</p> <p>①大きなテーマとして浮かび上がったのは「意思決定支援」「家族支援」「強度行動障害への対応」の3つ。 →強度行動障害の背景にも意思決定支援が関わるため、全体会では「意志決定支援」を中心テーマに据えることとする。</p> <p>②居室確保事業の周知不足については、今後も市と共に協議し、別にある連絡会でも扱っていく。</p> <p>③部会ごとの役割分担について 各部会で意思決定支援をテーマの中心として議論・活動を進め、令和8年12月の全体会で共有する。</p> <p>＜出された意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討が「サービス調整」「誰が何をするか」という議論に偏りがち。本来は、“この人はどんな背景で、どう感じ、どう生きてきたのか”という“本人理解”から始めるべき。</li> <li>・幼少期の経験や、言語化されない思いを丁寧にたどることで、支援のヒントが見えてくる。また幼少期に選択した経験がないと、大人になってから選択することが難しい。</li> <li>・「意思決定＝決めること」と誤解され、決定行為だけが強調されている。本質は“決定の前段階で、本人の思いを汲み取ることにある。</li> <li>・幼少期から大人期までの連続した支援が難しいので、つながりのある支援ができると良い。</li> <li>・子どもの事業所は、事業所交流会があるが、高校卒業後に子どもたちが通う事業所の交流会はない。ざっくばらんに話せる場所があると良いのではないか。</li> </ul> <p><b>4 その他</b></p> <p>市役所の機構改革により、令和8年4月から介護福祉課の担当業務は地域福祉課へ移行する。</p>
<p>今回確認事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和9年度から委員の新しい任期が始まる。その時期が新たな部会や仕組みを作る機会である。自立支援協議会でも部会再編の議論が進んでおり、今回の議論を踏まえて検討が必要。</li> <li>・令和8年7月2日の第一回自立支援協議会本会には、可能な限り部会長および副会長にご出席いただき、各部会の活動内容についてご報告いただく。</li> </ul>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和8年12月（日時未定）</p>
<p>次回会場</p>	<p>日進市障害者福祉センター 大会議室</p>

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第 2 回	全体会
	令和 8 年 3 月 17 日 (火) 13 時 30 分～15 時 05 分	
会 場	日進市障害者福祉センター 大会議室	

専門部会員	
① 福岡 玲奈	② 小山 貴弘
③ 水谷 公哉 (欠席)	④ 中河 智幸
⑤ 阿尾 匡晃	⑥ 丸山 美希
⑦ 森田 沙弥香	⑧ 磯畑 香苗

(市職員)

① 大澤 紀夫	② 岩城 佳寿
③ 大橋 志乃	

(事務局)

① 櫻木 順子	② 八木 柚月
③ 武田 裕子	④ 宇佐美 香津美
⑤ 日岡 由季枝	⑥ 武末 拓也 (欠席)
⑦ 西岡 きくの	⑧ 森田 敏湖
⑨ 中村 美智子	⑩ 宮川 みどり
⑪ 西澤 伸太郎	⑫ 白井 暢子
⑬ 桂川 斐斗美	⑭ 山 歩美
⑮ 三宅 恵里子	